



第2回おおたオープンファクトリー開催!

"Ota Open Factory" was held successfully!

大田PJでは、12月1日(土)に町工場公開イベント「おおたオープンファクトリー」を開催しました。地元の住民の方々も、遠方から足を運んでくださった方々も、思い思いに町工場の魅力を楽しんでいただけたようです!横浜国立大の野原先生によるPJ解説と、M1 福士の開催報告です。

おおたオープンファクトリー開催の背景

横浜国立大学 野原 卓 准教授

人口69万(23区で第3位)を擁し、西は田園調布、中央には大森蒲田の商店街、そして東の羽田空港と、多様な風景で彩られる大田区。特に、「町工場の集積」は有名ですが、区内の工場数は、現在、ピーク時の半分(約4000強)にまで減少しています。町工場に眠る世界屈指の技術は、地域のみならず日本の大事な資産である一方、目の前では住宅地化が進行しており、厳しい操業環境に置かれています。同じ地域にいながらにして、接点のなかった区民への発信や地域との連携、新たなクリエイターとのマッチングによるブランド化、負担の大きな工場見学の効率化、地域環境の改善などを通して、(クリエイティブな製作も含む)モノづ

くりを資産として生かしたまちづくりを推進したいという思いがありました。そのフラッグシップイベントとして、多摩川沿いの町工場集積地である下丸子・武蔵新田駅周辺地区を中心に、今年の2月、「第1回おおたオープンファクトリー」を開催しました。

第2回となる今回は、大田クリエイティブタウン研究会(大田観光協会+首都大学東京・横浜国立大学・東京大学)とともに、地元の町工場組合団体である「工和会協同組合」との共同で開催されたほか、地元の商店街でのフラッグ掲示や町内会へのポスター掲示、飲食店連携など、地域ぐるみでの広がりあるイベントとなりました。



▲手彫り刻印の小さな作業場いっぱいに来場者が入り、職人さんの説明に耳を傾ける



▲マップ配布で賑わう下丸子駅前



▲身近に隠れていた世界に誇る技術に触れる

今後への可能性が感じられた第2回

text_fukushi

第2回となる今回のおおたオープンファクトリーでは、下丸子駅・武蔵新田駅周辺地区の約30の企業のご協力をいただきました。当日はとても肌寒く時折雲行きが心配になることもありました。およそ1500名の方々にご来場いただき、大田のまちがいつもと違う賑わいを見せていました。町工場の軒先に大人から子どもまでたくさんの方が集まり、職人さんも生き生きと自慢の技術や製品の説明をされていました。

開催に向けて、おおたクリエイティブタウン研究会と参加工場の方々とで夏から企画を練り、工場の公開方式を第1回と異なるものにしたほか、様々なツアーや子ども向けのスタンプラリーの実施、新たな展示拠点の設置など、第1回にはなかった新たな企画にも数多く挑戦しました。学生が少ない中で色々な調整を重ねるのは難しく、反省点も多くありますが、来場者の反応や企画段階での様々な主体との連携によって、今後のオープンファクトリーのさらなる発展の可能性が感じられました。ご多忙の中、学生の企画に真剣に伝えてくださった参加工場の方々や大田観光協会の皆様、すべての関係者の方々に心より感謝申し上げます。



▲子ども向けのスタンプラリーも実施



第3回UDCフォーラム開催！

黒瀬 武史 助教

東大 GCOE 国際 WS のスペシャルセッションとして、12月3日(月)に第3回UDCフォーラムを開催しました。出口教授の開会挨拶に続いて、芝浦工大前田教授の基調講演、韓国・水原市のまちネサンスセンターのLee所長とタイ・バンコク市のUrban design and development Centreのプロジェクトマネージャー Ratawaraha 氏の活動報告を発表いただきました。後半の議論では、UDCの可能性、住民・地域との対話のあり方など多岐にわたる議論が展開。翌日は、水原・バンコクのお二人とUDCKを訪問、岡本ディレクターと具体的な事業や資金負担など、突っ込んだ話題で盛り上がりました。アジアが直面する開発と保全の両立という課題に、多様な主体と現場のコラボレーションで立ち向かうUDCの幅広い可能性を感じた2日間でした。



▲アーバンデザインフォーラムの様子



▲UDCK 岡本ディレクターへのヒアリング後

リーブス先生特別講義

text_omori

11月22日(木)に、かつて都市デザイン研究室に客員教授としていらっしゃったヴァーモント大学のチェスター・リーブス先生が特別講義を行いました。日本の自転車文化の面白さと奥深さが、スーパーの駐輪スペースや最新の駅前地下駐輪場などを事例に語られました。日本は決して自転車交通の環境が良い訳ではありませんが、市民の足としてこれほど自転車が浸透し、細やかな改良が施されていることに先生は驚嘆され、「自転車のカゴの大きさや行動範囲に、主婦の買物行動さらには生活圏が規定されている」という仮説を紹介されました。自転車が今後の都市にも欠かせない存在だという示唆に富む講義となりました。



▲日本の自転車文化について解説



▲リーブス先生著作

プロジェクト報告



水 Waterscape-project プロジェクト

河岸のまちの構造をさぐる調査が進んでいます！

text_koshimura

11月14日(水)、窪田先生、M2 安東、M1 越村で鬼怒川下流部(守谷市大木)と、利根川・江戸川の分派する千葉県野田市関宿・茨城県境町へ現地調査に行きました。鬼怒川下流部は台地を開削し流路の変更が行われた場所で、かつて大木河岸をはじめ河岸がいくつか存在していました。川で魚釣りをしていた方によると、大木には渡し舟の船頭が詰めるための小屋もあったそうです。対岸の神社の鳥居が鬼怒川に向かって立っていたのも興味深かったです。境・関宿も利根川水運と日光東往還の交点として重要な河岸にだったようです。境では街道の太い道路が堤防に突き当たって途切れ堤外にはその延長上に川へのアプローチ路があったり、関宿では河川改修で作られた堤防の脇に関宿城の堀の跡が見られたりと、かつてのまちの構造への想像が膨らむ調査となりました。



▲川に向かって立つ神社の鳥居



▲堤防で途切れる道

演習TA奮闘記！

Working as Teaching Assistants!

2年生の設計演習のTAを務めました！

M1 児玉 千絵

3ヶ月に渡る2年演習がついに最終ジュリーを終えました。恒例の心地良い都市空間の宿題に始まり、キャンパス内の空間分析、懐徳館周辺の設計を通じて、空間を解釈し提案する一連の考え方に初めて触れ、2年生も演習の醍醐味や困難を実感したと思います。TAとしても学生の好奇心や疑問の持ち方、先生方の熱心さを改めて身近に感じ、大いに刺激を受けました。ありがとうございました。

なお、成果物の詳細は後日冊子にまとめる予定なので乞うご期待。



▲心地良い都市空間を紹介し合う



▲石川幹子先生のレクチャー



▲模型を使った最終ジュリー

編集後記

福士 薫

体力には自信がある方なのですが、徐々に風邪をこじらせてしまいました。放っておいたら中々治らず結局病院に行ってみると、のどがひどい状態だと言われてしまいました…。早めに診てもらうのが一番ですね。年末年始に向けてまだまだ慌ただしい日々だと思いますが、体調にはくれぐれもお気をつけて！

1月の予定

- 1月4日～12日 ルンビニPJ 現地調査
- 1月9日 第14回研究室会議
- 1月11日 第15回研究室会議

Information